

## 2020年度 学習支援計画書

授業科目区分	科目名 [英文名]		単位	N	S	M
専門教育科目	レクリエーションスポーツ実習 [Recreational Sports]		1			
授業形態	担当教員名					科目ナンバー
実習 アクティブ・ラーニング	福島 邦男					NSM-S4131
この授業に関する資格						
レクリエーション・インストラクター、障がい者初級スポーツ指導者、子ども身体運動発達指導士						
この授業のキーワード		授業概要				
1	レクリエーションスポーツ	現在、生涯スポーツの一手段として、また健康づくりを目的として、様々なレクリエーションスポーツが行われている。本授業では、それぞれの種目や活動が持つ特性や心理的、身体的、あるいは社会的な効果について考えながら、対象にあわせて指導を展開する際に必要なコミュニケーションスキルについても学習する。				
2	ニュースポーツ					
3	障害者スポーツ					
学習の到達目標						
単に技術やルールの習得にとどまることなく、その指導方法について学習して、模擬授業を担当することで指導技術も身につける。						
回	テーマ	授業内容				AL
1	実習ガイダンス	レクリエーションスポーツの特性とその目的				
2	信頼関係づくりの方法 1	ホスピタリティについて				○
3	信頼関係づくりの方法 2	自己紹介 伝えること、受け止めることについて				○
4	信頼関係づくりの方法 3	コミュニケーションワークについて 集団をまとめる				○
5	良好な集団づくりの方法 1	アイスブレイキングについて実践を通して学ぶ				○
6	良好な集団づくりの方法 2	アイスブレイキング要素の高いレクリエーションゲーム				○
7	良好な集団づくりの方法 3	アイスブレイキングの支援技術				○
8	楽しむ力を高める方法 1	課題解決型グループワークを体験する				○
9	楽しむ力を高める方法 2	体験学習プログラムとしての活用方法				○
10	楽しむ力を高める方法 3	イニシアティブゲームの展開方法				○
11	レクリエーション支援のプログラム 1	子どもから高齢者まで、障がいの有無に係らず、誰もが楽しめるニュースポーツの展開				○
12	レクリエーション支援のプログラム 2	子どもから高齢者まで、障がいの有無に係らず誰もが楽しめる身体活動 歌やゲーム				○
13	レクリエーション支援のプログラム 3	障がい者スポーツ 1 誰もが楽しめるアクティビティ				○
14	レクリエーション支援のプログラム 4	障がい者スポーツ 2 障がいの程度別の指導について				○
15	実習のまとめ	授業で取りあげたスポーツのまとめ				
試験等	なし					
教科書及び参考図書						
参考図書：楽しさをおとした心の元気づくり、(財)日本レクリエーション協会、レクリエーション支援の基礎、(財)日本レクリエーション協会 その他 必要に応じて資料を配付する						
準備学習・事後学習						
準備学習：授業のキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネットの動画など）を入手し、毎回の実習に生かせるように目を通しておく。 事後学習：毎時間の資料は保管しておき、事後学習に活用できるようにしておく。						
課題に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、毎時授業日誌を回収し、コメントを加えて返却する。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の目安と方法						
平常点 70% 提出物・レポート 30%						
評価	成績評価別の到達度					
S	レクリエーションスポーツの意義を活かした、健康生活への応用力を十分に身につけている。					
A	レクリエーションスポーツの意義を良く理解している。					
B	レクリエーションスポーツの意義を理解している。					
C	レクリエーションスポーツの基礎的な理解している。					